

7歳虐待死疑い

手足10カ所たばこ痕

同居直後から暴行か

大阪市西淀川区で7歳の長男に暴行し、死なせたとして両親が逮捕された虐待事件で、死亡した同区大和田の小学2年、藤永翼君(2)の写真の手足に、約10カ所のたばこを押しつけたようなやけどの痕があったことが26日、大阪府警西淀川署への取材で分かった。顔など数カ所にあざもあり、皮膚の状態から数カ月前にできたものもあるとみられる。今年4月ごろから、翼君宅から怒鳴り声があるよ

うになったとの証言もあり、同署は翼君が両親と同じ居た直後から、日常的に虐待されていた可能性があるとみている。

同署によると、司法解剖の結果、翼君の死因は、頭頂部を強く打ったことによる脳幹部出血や外傷性くも膜下出血などだった。

また、火の付いたたばこを押しつけたような円状のやけどの痕やあざなどが、顔や手足など広範囲にわたって残っており、古いもの



のほか数日前にできたと思われるものもあった。

翼君の身長は114センチ、体重は18・4キログラムで、同年代

平松市長、対応を疑問視

大阪市は26日、関係部署の所属長や区長を集めた緊急の関係局会議を市役所で開催。平松邦夫市長は「亡くなった藤永翼君からのSOSを受け取るセンサーに問題があったのではないかと市の対応に疑問を投げかけるとともに、児童虐待の再発防止の徹底を呼びかけた。

会議で平松市長は、翼君の通っていた小学校から虐待が疑われる情報が寄せられていた経過などに関し、「(市)子ども相談センターなどの施設を拡充しても、運用する側のセンサーに問題があれば、『仏作って魂入れず』だ。二度と痛ましい事件を起こさないためにも、非常事態宣言ともいえる取り組みを」と述べた。

一方、全市立学校園長を集めた緊急の会合も市教育センター(港区)で開かれ、翼君の担当が7月27日に家庭訪問した後は、2回の電話連絡で対応していた経過が報告された。

永井哲郎教育長は「心配な子供がいれば、電話で済ませるのではなく、直接会って顔をみてほしい」と出席した学校園長に指示した。

の平均と比べ5〜6ヶ少ないという。

同居の無職で継父、森田勝智(44)容疑者(44)は傷害致死容疑で逮捕。は調べにに対し、「たまたまコミュニケーションのつもりでプロレスをやっていた。悪いことをしたときにはしつけをしていた」などと供述しており、同署は詳しい暴行の内容を調べている。翼君は児

童養護施設に入っていたが、今年3月末から両親と同居。近所の主婦によると、この頃から、森田容疑者や妻で実母の良子容疑者(29)同様の怒鳴り声が頻繁に聞こえるようになった。

両容疑者から「出ていけ」などと怒鳴られた翼君が「ごめんさい」と泣きながら謝るやり取りが、約1時間にわたって繰り返されることもあったという。